



松重美人

深田敏夫

岸田貢宜

菊池俊吉

山端庸介

松本栄一

林重男

核——半減期

The Half-Life of Awareness
Photographs of Hiroshima and Nagasaki



福島菊次郎

土門拳

石黒健治

土田ヒロミ

東松照明

1995年9月21日(木)～11月10日(金)

東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography



1945年8月6日に広島、8月9日には長崎に原子爆弾が投下され炸裂しました。それは人間による無差別で均一な瞬間的破壊と殺戮にほかならず、それまで経験したことのない現実を私たち人類にもたらしたのです。

8月15日、太平洋戦争は日本の敗戦というかたちをもって終結し、新生日本は平和と民主主義を掲げて出発をしました。

しかし、高度経済成長をとげながら繁栄する日本の中で、「被爆」という現実とはもすれば忘れられ、また形骸化の危機をはらんでいるといつてよいでしょう。

本展は「1945広島・長崎」と「戦後史」の中のヒロシマ・ナガサキの二つのパートで構成されます。第1部では、精神的にも肉体的にも過酷な状況にありながら、一人の目撃者としてシャッターを切った写真家たちの写真を取り上げます。そこには、真直なまなざしがとらえた冷徹な事実が映し出されていて、その事実は今も私たちを震撼させるでしょう。第2部では、戦後写真を代表する写真家たちが、見せかけの平和と繁栄の中で少しずつ、だが確実に風化してゆく「被爆」という歴史的事実をいかにとらえてきたかをたどるものです。そこには、悲惨な事実が「歴史」の一ページにあるのではなく、自らが生きている「現在」の中にとらえ返そうとしてきた軌跡が検証されるでしょう。

ここに構成された写真群を見ることは、「被爆」という歴史的事実とその事実からはじまる歴史を知るだけでなく、今日を生きる私たちの「現実」をとらえる方法になると考えます。

〈講演会のお知らせ〉
日時／11月3日(金) 午後2時より
会場／東京都写真美術館 1階ホール(無料)
講師／岩倉裕・土田ヒロミ

〈フロアレクチャーのお知らせ〉
第1回 9月30日(土) 午後2時より
第2回 10月5日(木) 午後6時より
第3回 10月29日(日) 午後3時より

1. 松重美人／富山県、8月6日午前11時すぎ 1945年
2. 深田敏夫／さのこ書 爆発後20分以内 1945年
3. 岸田貢宜／本通り馬場町中ほどから車をみる 1945年
4. 菊池俊吉／日本赤十字病院 1945年
5. 松本栄一／爆にうけた傷の手当(新聞写真部提供) 1945年
6. 林重男／山王神社の柱足場 1945年
7. 福島菊次郎／「ピカドン」より 1956年
8. 土門 拳／生きているヒロシマより 1957年
9. 石黒健治／広島・HIROSHIMA NOWより 1965-66年
10. 東松照明／「長崎」11.02.1945年8月9日より 1961年

表・土 山端庸介／おにぎりを持つ少年 井越／口町(爆心地より南南東1.5km) 1945年
表・下 土田ヒロミ／「ヒロシマ」より 1980-82年

核——半減期

The Half-Life of Awareness Photographs of Hiroshima and Nagasaki

1995年9月21日(木)～11月10日(金)

開館時間＝午前10時～午後6時 木、金曜日は午後8時まで ※入館は閉館の30分前まで
休館日＝毎週月曜日 会場＝2階企画展示室

観覧料＝一般・大学生600 480 円 小・中・高校生300 240 円

1 内は20名以上の団体料金

主催＝東京都写真美術館 展覧会のお問い合わせはハローダイヤルへ03(3272)8600



Tokyo Metropolitan
Museum of Photography
東京都写真美術館
東京都目黒区三田1-13-3 TEL (03)3280-0031代